

## 近くて遠い国 韓国



川島 順

予科21-7

航空7-1

(越谷市)

2月19日の朝日新聞の朝刊に『漢字復権 韓国沸く』との見出しで、『朝鮮半島固有の表音文字ハングルを使う韓国で片隅に追いやられた漢字が「復権」の兆しを見せている。』と報道された。ハングルは朝鮮王朝時代の15世紀半ばに世宗王の下で作られ、漢字とハングルは長く併用されてきたが、戦後、1948年にできたハングル専用法で公文書をハングルで書くことが義務付けられた。

私は、特許関係の仕事をしているが、韓国の特許関係の書類だけはお手あげである。すべて日本語に翻訳してもらわなければ、特許の内容（明細書）、韓国特許庁の通知書（拒絶理由通知、査定書）等全く理解できないので、非常に不便を感じていた。

私は小学生の頃3年ほど韓国のソウル近郊の龍山に住んでいた。

戦後、昔のことが懐かしく韓国を訪問した。1983年、26年前のことである。当時は、駅、商店、道路標識、案内図等に漢字はもとより英語も全く使用されておらず、曾て住んでいた土地にも拘わらず韓国語の分からない私は観光するにも通訳のガイドさんを同行しなければならない状況であった。ガイドさんに頼んで昔の小学校を探してもらったが結局見つからなかった。当時の話によると、看板に漢字を使用することは法律的に禁止されてはいないが高い

税金がかかるとのことで、町中ハングルだらけで漢字は全く見あたらなかった。

ホテルの売店で「朝鮮人参」を買い求めようとしたら、朝鮮人参はありません「韓国人参」でしょうと女店員に睨まれたり、中央博物館を見学した時、私のガイドさんはある置物を指してこれは日本が韓国を侵略した時ある武将が略奪し日本に持ち帰ったもので、戦後前非を悔い返還したものですと。それは、豊臣秀吉時代の話で武将とは加藤清正のことであった。民族村での白磁の説明、総統府の説明等悉く日本侵略の被害者としての説明のおまけが付いた。2～3日行動を共にしてある程度気心が知れるようになったガイドさんは、「私は言いたくないのですが、夫が可成り反日的で、このように言うことを強制されている」と呟いた。

このような事があったせいか、ソールの街並み、南大門、南山、旧京城駅等昔の面影を残していて、懐かしさを感じたものの、街行く人々はよそよそしく、言葉も文字も通じないので、何か見知らぬ外国に来た感じであった。

それから16年たって、1999年再び韓国を訪れた。慶州で行われたAPPA（アジア弁理士会）の会議の後で、ソールの郊外にある新しくできた韓国の特許法院（特許裁判所）を訪問した。崔公雄法院長は日本語が上手で極めて親日的な方であった。まず、法院のパンフレットが配られ内容の説明があった。このパンフレットは漢字主体で助詞だけがハングルで書かれていた。特に漢字は日本の元の漢字と同じで、中文の略した漢字とは異なり読み易く、文法も日本と同じなので、一寸慣れると我々でも十分理解することができた。

最近、韓国では漢字が解禁されたのですかと質問すると、日本、中国からの来訪者のために特に作成したものですとの答え。

更に、韓国の公用語に漢字を使用する計画はありませんかと一寸意地悪な質問をしたら、特許庁の特許管理のプログラムが全てハングルで作成されているので漢字は使用できないと苦しい答弁をされた。

ソールのホテルに落ち着いてから、急に昔住んでいた龍山を訪ねてみようと思立ち、JTBの日本語の地図を頼りに初めて地下鉄に乗った。当時は地下鉄の駅名、案内等はハングルのみで、切符を買うのも、電車の行き先、降りる駅名も皆目分からなかったが、幸い、駅に固有の数字が付いているので、それを頼りに切符を買い、ホームに出てみると右側通行なので電車が反対からくる。目的の方向に行く電車かどうか分かず不安のまま乗ったが、どうにか駅の番号を頼りに目的の「三角地」にたどり着く。

駅から階段を上がるところに表示板があり珍しく英語で「Yongsan Primary School」と表示され、その下にハングルでなにやら併記されていた。そのハングルを筆記し、地上に出てみると、そこは昔小学生のとき毎日学校に通った通り道の交差点（三角地）で急に昔の思い出が蘇ってきた。たしか学校はこの裏の方であった思い、道行く人に、筆記したハングルの地名を見せて学校を尋ねるとすぐそこだと指さしてくれた。昔の記憶となんだか違う気がしたが建物の中に入って来意を告げると、どうも違うらしい。後で韓国人に聞いたらそのハングル語は消防署とのことであった。

やむを得ず、自分の記憶を頼りに近くを探すと小学校らしいコンクリート塀に囲まれた校庭が見つかった。校門の表札はハングルで旧龍山小学校であるかどうかは分からなかったが、校庭の真ん中には4階建ての大きな校舎が建っていた。これは私が入校する前年に新築されたコンクリート建ての校舎で、当時内地でも小学校でコンクリ

ート建ての校舎は極めて珍しかった。この校舎を見てこれが私の通った龍山小学校であることを確信して、写真を撮って校門を出た。

次にその足で、昔の家を訪ねてみた。昔の家はそのまま残っているが現在は米8軍の管轄地なので入れないと予め聞いていたが、せめて近くまで行ってみようかと、記憶を頼りに三角地から見覚えの坂道を上がっていった。左手に小高い丘がある。これは昔、我々は鳩山と呼んでいて、山頂に陸軍の伝書鳩の鳩小屋があり、遊びに行くと兵隊さんが鳩の卵を呉れたりした。その山の向こうに大きな森があり沢山の鳥が住んでいた。夕方になると鳥の大群がこの森に帰ってくる。しかし、朝鮮の鳥は白い（灰色）、豚は黒い。「白い鳥に黒い豚」とよく子供の時言ったものだ。その森のあたりに、現在、戦争記念館が建っている。この記念館については別の機会に紹介したい。

坂道の先には大きなゲートが立ちふさがっていた。この一寸先に我が家の官舎があったのだが、それから先は立ち入り禁止。軍の施設を撮影すると捕まるとの噂もあったので恐る恐る写真を撮り、引き返した。

大分横道にそれたが、懐かしの朝鮮は今ではよその国。しかし、今までは色々と2国間で軋轢があったが、最近急に若い人の間に韓流という言葉が流行し、2国間の距離は急に近づいてきたような気がする。ここで、韓国で漢字が復権すれば、両国人の意思疎通は極めて容易になり、益々よい関係に発展するのではないかと期待したい。

また、特許や学術的な分野においても、韓国文献の漢字化は実務面でも大いに役立つものと思われる。

そして、韓国が「近くて遠い国」でなくて「近くて近い国」になることを願ってしまない。